NO.747 2024　　聖イグナチオ教会報

7月

カトリック麹町教会

MAGIS

St. Ignatius Church, Tokyo
Celebrating 25 years

マジス　＝　「より、もっと、さらに」

教会テーマ　さあ出かけよう　心をつないで　イエスとともに
～ともに重ねた25年の喜びのうちに　聖霊の導く未来へ～

皆さんから学び、皆さんのために、皆さんとともに

協力司祭　グエン・バン・テー

皆さん、こんにちは。

私は、イエズス会員のドメニコ・グエン・バン・テーと申します。私は、2023年12月2日に司祭に叙階され、2024年1月12日に日本に到着しました。現在、SJハウスコミュニティーに住んでいます。私は2016年から2018年までの2年間、日本に住んでいました。その後、ベトナムに戻って、1年間の中間期を終えて、4年間、神学を学びました。日本に住んでいた2年間、私の日本語は、あまり上達しませんでした。その後の6年間、日本語を使わずに過ごし、その間に新しい言語や神学科目を勉強しました。そのため、私の日本語能力はゼロに戻ってしまいました。

私が、日本に戻るきっかけとなったのは、まず、イエズス会の日本管区長とベトナム管区長の2人を通した、主イエスからの招きでした。そして、日本とこの国に住んでいる人々が大好きなので、日本に戻ることにしました。私は自分の中に喜びと平安を感じています。なぜなら、どこへ行っても私はイエズス会の中にいるからです。私が何をするとしても、私はイエスの使命を遂行します。どこにいても、困難や課題はありますが、神がともにおり、イエズス会の兄弟が私を支え、受け入れてくれているということを常に意識しているので、私は幸せです。

私は神さまと皆さんの司祭として、6年ぶりに日本に戻りました。ですから、私は皆さんから、そして皆さんのために、いろいろなことを学ぶためにここに来ました。それが、私が、教会を通して神から受けた願いであり、使命です。今、私の心の中で、日本は自分の第二の故郷であり、皆さんのことは自分の新しい家族であり、兄弟姉妹、そして友人となりました。私の日本語能力は十分ではないですが、忍耐強く受け入れていただき、神が、私に心の中で与えてくださった使命を果たせるよう、皆さんに助けていただきたいと願っています。私は、皆さんの仲間です。

自分がSJハウスコミュニティーに住めるようにしてくれたイエズス会の方々に感謝します。SJハウスコミュニティーは、豊かな精神的、知的、司牧的経験を持つ多くの司祭やブラザーがいる国際コミュニティーです。私は彼らから実践的なレッスンを学ぶことができます。彼らは、私を息子や弟のように気にかけ、導いてくださいます。私は、SJハウスに住むことができて、とても幸せです。なぜなら、神がイエズス会に与えられた使命を遂行するために、修道会の神父や教師たちと協力できるからです。

私は、神と教会が自分に対して持っている信頼に、さらにふさわしい生き方をしたいと願っています。私は、皆さんと一緒にここにいて、皆さんから、そして皆さんのために学びたいと思っています。

よろしくお願いします。

教会報 MAGIS 7月号

† パイプオルガン奉献 25 周年記念
　オルガンで綴る 32 文字の黙想　P2
† 現聖堂 25 周年記念行事と教会行事　P3
† イエズス会 社会司牧センターの使命と活動
　信仰と社会正義を結びつける　P4
† 教会活動グループ便り ⑪　P5
† つながるプロジェクト ①　P5
† 〈現聖堂 25 周年記念連載〉 ④　P6
† Family of St.Ignatius
　～インドネシア共同体から～　P7

【7月の共同祈願】

夏休みを迎える

子どもたちとともに、

私たちも暑さを乗り越え、

祈りのうちに、

健やかに過ごすことができますように。

【7月28日聖イグナチオ記念ミサの共同祈願】

この教会の守護聖人である

ロヨラの聖イグナチオにならいます。

さまざまな心の動きの中から

良い霊の促しに私たちが

従うことができますように。

パイプオルガン奉献25周年記念

オルガンで綴る32文字の黙想

現聖堂が献堂された1999年に設置されたパイプオルガンのコンサートが、6月4日（火）19時から主聖堂にて行われました。

当教会首席オルガニストの浅井寛子さんの演奏で1時間半。荘厳で温かい音色が聖堂内に響き渡りました。

演奏曲目はJ.S.バッハの『アリアと種々の変奏（ゴルトベルク変奏曲）BWV988』で、前後に聖歌『みこころに』、『神の国と神の義を』（日本語・英語）と『あめのきさき』を歌い、聖書朗読、サトルニノ・オチョア神父の講話をはさんで、和やかな時間を過ごしました。

オチョア神父の講話

今日はたくさんの方にお集まりいただき、久しぶりに皆で心から声を出して聖歌を歌うことができました。

今日の聖書朗読（詩篇98：1～6）の「新しい歌を歌う」とは、私たちがコロナ禍や人生におけるさまざまな体験によって神さまから新しい目をいただき、見ることが出来るようになったことを意味します。

今日の祈りの楽曲を通して、素晴らしいオルガンの音色が私たちの心の中で響きます。私たちが新しい目を持ち、新しい歌を歌うことで生まれ変わることができますように。

聖アウグスティヌスはラテン語で“Qui Bene cantat, bis orat”（よく歌う人は、倍祈る）と言いました。今日私たちの祈りは、昔のバッハの音楽を聞くことで、その価値がさらに高まります。新しい心の目で、新しい心の耳でそれを聴きましょう。

32文字の黙想

『ゴルトベルク変奏曲』は、32小節からなる主題と変奏が全部で32曲。それぞれの変奏曲のキャラクターに合わせて漢字を一文字ずつ当てはめ、それらを聖堂前方のディスプレーに投影しながら演奏が進められました。

浅井寛子さんの独自の解釈で当てはめられた32文字の映像は、1曲ごとに前半は「慈」「悦」「歩」「楽」「奮」「嬉」「進」「躍」「泉」「慎」「威」「慕」「厳」「篤」「炎」「孤」の16文字。

後半は「勇」「闘」「若」「新」「臆」「妬」「健」「戯」「尊」「失」「霊」「敏」「爽」「愉」「賑」「愛」の16文字、計32文字が筆文字でディスプレー上に投影されました。

「次はどのような文字が投影されるのだろうか」とワクワクしながら演奏に聞き入ることができました。

8カ国語での合唱

オルガン演奏の最後に、聖歌『あめのきさき』を8カ国語（順に日本語・英語・フランス語・イタリア語・タガログ語・ドイツ語・スペイン語・韓国語）で合唱しました。

各国の聖歌隊から選出された代表者が次々にハンドマイクを手渡し、スペイン語はオチョア神父が歌われました。主聖堂全体に歌声の調和と一致が実現し、オチョア神父の祝福を受けて閉会となりました。

現聖堂25周年記念行事

現聖堂25周年記念主日ミサ

現聖堂の献堂25周年記念ミサが6月9日（日）10時より主聖堂にて、高祖敏明主任司祭の主司式で行われました。4月15日（月）にザビエル聖堂に設置された新しいオルガンも祝福されました。

現聖堂25周年記念ミサ

高祖神父は現聖堂の歴史をひもときながら説教をされました。

「1999年6月6日に献堂式が行われました。この教会の特徴は祭壇を囲む会衆席、12使徒を表す12本の柱、花びら模様の天井、聖書が描く大自然をモチーフにしたステンドグラスです。ドイツ製パイプオルガンも25周年を迎えています。

前聖堂は老朽化と出入り口が少ないことから、新聖堂建築の話が持ち上がったそうです。様々な意見がある中、何度も説明会や意見聴取を繰り返し、国内だけでなくヨーロッパにも教会建築を見に行ったそうです。そして、献堂の5年前に起工式が行われました。今日につながる留意点をご紹介します。①祈り、宗教儀式、結婚式、葬儀などの秘跡の場としてふさわしく、静かで神聖な空間を創造する ②訪れるすべての人に配慮し、開かれた教会とする ③植木や中庭を十分に活用し、貴重な敷地を有効に活用する ④前聖堂の鐘やステンドグラスなどをできるだけ活用する ⑤小教区教会としての必要に応えるとともに、小教区を超える性格をもったインターナショナルな教会にする ⑥情報化時代にふさわしい設備を整える

[redacted]

最後に復活のイエス像について。十字架は壁と同じ色でイエスが飛び出ていますが、これは十字架に対する勝利を表しているそうです。地下にはクリプタ（納骨堂）があります。この建物全体が『死から復活へ』を象徴的に示しています」

ザビエル聖堂のオルガンの祝福

派遣の祝福の前に、ザビエル聖堂の電子オルガンが祝福されました[redacted]（故人）夫妻が形に残るものを残したい、ということで寄贈してくださいました」と高祖神父。

その後、首席オルガニストの浅井寛子さんが演奏し、主な機能の説明がありました。「パイプオルガンのペダルを踏んでいるかのように、小さな音から大きな音まで重低音がよく響きます。たくさんのボタンがあり、18世紀バロック、19世紀ロマン主義、20世紀現代、それぞれの時代の音色を奏でます。他の楽器の音でも演奏できます」。最後に、このオルガンで『こえをあわせ』が演奏され、ミサが閉祭しました。

教会行事

●リビングロザリー

5月26日(日)16時45分から、中庭で開催されました。「母マリア、私たちの平和、御子へ、私たちを導いてください」をテーマに、祈りが捧げられました。天候に恵まれ、ベトナム語、英語、日本語、タガログ語、スペイン語の5カ国語で、ロザリオの輪が作られました。

はじめに、サトルニノ・オチョア神父は「5月は、マリアさまのことを考える月です。教会は、マリアさまの見守りを感じています。私たちと一緒に祈って下さっています。マリアさまの祝福のうちに」と話されました。

次に、リビングロザリーを主体となって運営しているイングリッシュセンターのシスター フロール・フロレーセから、祈りの導入がなされました。「マリアさまはすべての民の母です。私たちはひとつの大きな家族として、世界、教会の置かれている状況を聖母マリアに委ね、恵み、あがない、平和のとりなしを願います」。ロザリオの祈りは一連を1言語で、5カ国語で順番に唱えられました。一連の初めに『あめのきさき』がそれぞれの言語で歌われ、『アヴェ・マリア』の歌声が響きました。

最後に、ボニー・ジェームス神父が、ともに祈る機会が与えられたことに感謝しました。聖母月にマリアさまに温かく包まれ、100名近い参加者が心をひとつにして、平和と恵みを求める祈りが唱えられました。

イエズス会 社会司牧センターの使命と活動

信仰と社会正義を結びつける

イエズス会 社会司牧センター所長　梶山 義夫神父

「現代の人々の喜びと希望、苦悩と不安、特に貧しい人々とすべての苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、苦悩と不安でもある。」1962年から65年にかけて開催された第二バチカン公会議の『現代世界憲章』冒頭の言葉です。教会は、信仰と社会正義を結びつけ、社会問題に積極的に取り組むための新しい体制を取ることを決めました。イエズス会 社会司牧センターもそうした取り組みとして、1981年に創立されました。事務室は、聖イグナチオ教会に隣接の岐部ホール4階にあります。

目指していること

イエズス会の今日の使命は、次の4つにまとめられます。それは、聖イグナチオの霊操と識別を通して神への道を示すこと、和解と正義のミッションにおいて、貧しい人々、世界から排除された人々、人間としての尊厳が侵害された人々とともに歩むこと、希望に満ちた未来の創造において若い人々とともに歩むこと、そして「ともに暮らす家」（地球）への配慮と世話を多くの人々と一緒に行うことです。社会司牧センターは、この使命を果たすことに力を注いでいます。

私たちは、聖イグナチオの「霊操」に基づいて、社会の動きの奥底にあるものに注意を払い、人々と大自然を神から引き離す悪を識別すること、また苦しむ人々とともに苦しまれるイエスの心に近づく生き方、神の創造の業に協力する生き方を求めています。

和解と正義は、私たちの主なミッションです。そのミッションは、社会の現実のただ中で、イエス・キリストがいのちをかけて求めた「神の国」、いつくしみとゆるしに基づく共同体、多様性を認め合う社会の実現を人々とともにめざすことです。この正義とは、すべての人をいつくしまれる神は、特に貧しい人々、抑圧されている人々、難民や移民、さまざまな形でのマイノリティーの人々と苦しみをともにされ、優先的に愛しておられることを意味します。その神の思いが、この社会に実現することを願っています。

若い人々とともに歩むことは、教会の重要課題です。若い人々は、世界的に見れば大多数が貧しく、不安定な雇用、政治的暴力の難題に直面し、若者たちは人生の意義を見いだすこと、神に近づくことが難しくなっています。同時に私たちが生きる時代に希望を与えてくれるのは、若い人々と若者の視点です。私たちはこの視点を活動の起点にしようとしていますが、この点でも聖イグナチオ教会の皆様の協力が不可欠です。

環境については、「人間の生命の尊厳と密接にかかわる問題です。…単に環境にやさしいエコな取り組み以上のものである…気候変動の悪影響をこうむるのは、家庭でも世界中どこでも、もっとも弱い立場の人たちです。…気候変動の原因は人間、つまり「人為的」であることは疑いようがありません。…危険な諸変化の速さの理由が、覆い隠せない事実、すなわち過去200年の間の自然に対する野放図な人的介入に関連した巨大な発展であることに、疑う余地はありません。」（教皇フランシスコ『ラウダーテ・デウム』1～14　2023年）この緊急課題について今までもセンターのセミナーで取り扱ってきましたが、今後は「霊操」をいかしながら、本腰を入れねばと考えています。私たちの後の世代に甚大な被害を残さないためにも、一緒に取り組んでまいりましょう。

具体的活動

聖イグナチオ教会との共催で、毎年セミナーを開催しています。2024年度の連続セミナーは、「シノドス的教会」の実現を目指して、皆が参加し、ともに歩んでみよう！と旅を続けます。各回、初めに講師から話があり、その後、グループに分かれ、分かち合いをします。8月と9月を除き、4月から12月までの第1・第3水曜日午後6時30分から8時までヨセフホールで開催しています。ぜひ、ご参加ください。

『社会司牧通信』は、社会の現場で福音の精神を実践する人々の生の声を多くの人に伝え、社会問題に取り組む助けとなりたいという志で創刊されました。隔月で発行しています。どうぞご購読下さい。詳しくは、センターのホームページをご覧ください。

2020年6月から、日本カトリック難民移住移動者委員会と移住連*とともに、多くの方々の協力を仰ぎながら、「ベトナム人労働相談ホットライン」を、最近は隔月で開催しています。

＊NPO法人 移住者と連帯する全国ネットワーク

活動グループ便り ⑪

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

教会案内グループ

教会に訪れる方々との一期一会を大事に

私たちは、毎月1回「教会案内ツアー」を行っています。

教会にはさまざまな方が訪れます。「教会はどんなところなのか見たい」「建物に興味がある」「一人だと入りにくい」「フラッと寄ってみた」。教会案内ツアーに参加される皆さまの理由もさまざまです。どんな理由であっても教会に興味を持って訪れて下さることに変わりはなく、一期一会を大事にしたいと思ってご案内をしています。

▲カラフルな旗が目印

ご参加いただいた方の中には、これがご縁となり洗礼を受けられた方も。私たちの大きな喜びです。

近年は学校の課外授業、外国からの修学旅行生、社会人サークルの皆さまをご案内することも増えています。一人でも多くの方に教会に親しみを持ってもらいたい、「また来たいね」と思ってもらいたい、スタートはそこからだと思い活動を続けています。

今年から巡礼企画もスタートします。第1回は11月の「高山右近ゆかりの地～大阪・金沢巡礼～」です。今後も年1回の企画をし、教会案内ツアー同様に多くの方とつながりを持つ活動をしていきたいと思っています。

日時：8月からは
毎月第2日曜
受付9時30分～
①10時30分 ②11時

場所：主聖堂前ツアーデスク

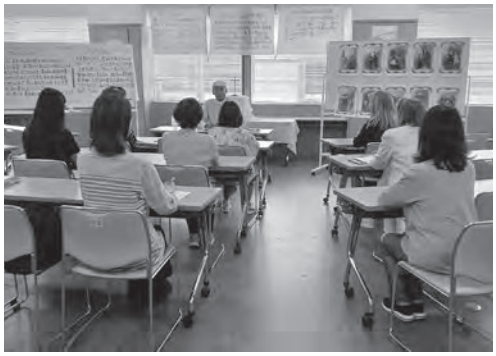
※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。

ロザリオの祈り会

マリアを通して神と対話する場に

ロザリオの祈りは、伝統的なキリスト教の祈りの方法の一つです。キリストの一つひとつの秘義を観想しつつ、キリストと共にあり、その似姿に近づくための祈りでもあります。聖なる山をめざし、ロザリオの珠を繰りながらの霊的道行きでもあります。ロザリオは十字架から始まり、十字架で終ります。

ロザリオの祈りは私たち教会共同体の太い絆であり、すべての人々に喜びと希望を抱かせてくれ、祈ることの幸せを味わうことができるのです。皆で心を一つにしてロザリオを祈る時、よりいっそう神への賛美と感謝が心に満ちあふれます。



「ロザリオの祈り会」は、2019年5月にスタートしました。会の祈りの意向は「司祭のための祈り」と「教会のために召し出しを願う祈り」ですが、それぞれの思いを捧げ、マリアを通して神と対話する場でもあります。第1金曜日は、キリストの受肉と奥義「喜びの神秘」とキリストの公生活の日々「光の神秘」を祈り、15時からボニー・ジェームス神父がその週の主日のミサの「聖書と典礼」の講話を、第3金曜日はキリストの受難「苦しみの神秘」とキリストの復活の栄光「栄えの神秘」を祈り、15時より中村健三神父からマルコ福音書の講話をいただいています。

心を静かにし、皆で神さまに心を向け、ご一緒にお祈りしませんか。一回だけの参加、神父様の講話からの参加も大歓迎です。

日時：毎月第1・第3金曜
祈り13時30分～14時30分
講話15時～16時

場所：アルペホール

つながるプロジェクト ①

共同体としてのつながりを深めることを目的に、ミッション2030プロジェクトチームがいろいろな言語のミサにともにあずかる取り組みを始めました。

最初の試みとして5月12日(日)12時からの英語ミサに、日本語圏から事前予約の13人が参加。体験を振り返り感想をいただきました。

「英語ミサに初めて参加しました。当日は日本語・英語・ベトナム語で書かれた式次第を貸していただき、ミサの流れがよく分かりました。英語圏の皆さまが、明るく楽しそうに聖歌を歌っているのが印象的でした。もう少し英語でコミュニケーションが取れるようになりたいと思いました」

「立ってミサにあずかる方もたくさんいる中、特別席まで用意していただいて感謝しています。今まで英語ミサにあずかっていた方も日本語ミサに来てくださるといいですね」

多言語で書かれた式次第は、教会案内所にて常時販売しています。

〈現聖堂25周年記念連載〉④

現聖堂は教会全体の努力と犠牲でできあがったのです

[redacted]さん（信徒）

ホイヴェルス神父のすばらしかった説教

昭和21年頃、関口教会で幼児洗礼を受けました。テレジア教会（聖イグナチオ教会の前身）が空襲で焼けたため、母が私を関口教会に連れていったようです。

昭和24年、当時としては日本最大の木造建築の聖堂が、四谷に誕生しました。それが聖イグナチオ教会の始まりです。私も聖イグナチオ教会に転籍し、土曜学校、中学生会、高校生会に参加しました。

その頃の思い出で印象深いのは初代の主任司祭ヘルマン・ホイヴェルス神父のことです。「最上のわざ」という詩などを通してご存じの方も多いと思いますが、学識が豊富であるばかりでなく、歌劇『受難』（昭和30年上演）、歌舞伎『細川ガラシャ』（昭和40年上演）を創られるなど才能豊かな神父でした。

とりわけすばらしかったのはミサの説教です。「説教は7分で終わりにする。その日の典礼のエッセンスをまとめて、信徒の皆さんがわかるように説明しなければ意味がない」とおっしゃり、本当に7分で話されて内容も非常に濃いのです。「今日はどんな説教が聞けるのだろう」と楽しみにしたものでした。

[redacted]

聖堂に合わせて中身も充実させて

1996年と1997年、現聖堂の建設が進んでいる時期に、教会委員をさせていただきました。

おそらく、当時の信徒の多くが「建設資金は足りるだろうか」と心配していたと思います。総額は約50億円。その内10億円を信徒で集めることになっていたからです。信徒数が6000～7000名の頃の話です。

募金活動は募金委員会を中心に1992年から5年計画で始まっており、各信徒が募金可能額と支払い方法、月賦かボーナス払いか一括かを申請し、それに応じて募金を行いました。その結果、目標を上回る約15億円が集まりました。それからバザーやチャリティーコンサートを通じた募金活動も積極的に行い、教会で積み立てていた儀式献金（結婚式や葬儀の謝礼）、イエズス会からの建設資金、企業や団体からの献金等を合わせて、無事に建設資金をすべてまかなうことができました。

このように現在の聖堂は教会全体、信徒全員、そして援助してくださった方々の大きな努力と犠牲によってできあがったのです。

「立派な聖堂ができるのだから、中身もしっかりしたものにしよう」と言われたのは、建設委員長だった池長潤神父でした。それにより1996年、信徒の精神的な柱として「意識の転換」運動が始まり、信徒一人ひとりが何らかの形で教会の奉仕活動に参加する「一人一役運動」が推進され、多くの活動グループが誕生して現在に至っています。

雪の日の思い出

現聖堂が完成したときに非常に記憶に残っているのは、お骨の移動をさせていただいたことです。旧聖堂と旧ザビエル聖堂の香部屋の奥にそれぞれ、たくさんのお骨が収められていました。それを新しくできた聖堂のクリプタ（納骨堂）に運ぶことになったのです。

1998年1月の雪が降る寒い日でした。陶器でできた骨壺を何人かで一人ひとつずつ、落とさないように大切に抱えて慎重に運びました。とても緊張したことを覚えています。

経験と知恵を後世に伝える大切さ

最後に、将来に向けた話を少しさせてください。

皆さんがお読みの教会報『マジス』をはじめ、教会の記録は大切に保存していくことが不可欠です。そしてその記録をもとに、区切りのいい年にぜひ年史を作りましょう。年史というのは、それまでに活動した人たちの経験と知恵が詰まった宝です。私たちの教会がどのような歩みをし、歴史を積み重ねてきたかをぜひ、後世の方たちに伝えてほしいと願っています。

✣ ✣ ✣

ミッション2030プロジェクトチームでは、現聖堂25周年を迎えるにあたり、聖堂建設の前後に尽力された方にお話を伺う「教会の語り部に聞く」という集いを開催しています。本稿は2024年4月21日（日）に行われた第2回に語り部として登場してくださった当教会信徒、[redacted]さんのお話から抜粋・編集したものです。

Family of St.Ignatius

～インドネシア共同体から～

インドネシア・カトリック共同体（KKIT）は多くの新しいメンバーを受け入れています。留学生をはじめ技能研修生の方々は私たちの共同体に新しい若さを与えています。長く日本に滞在する方々ではないかもしれませんが、私たちと一緒に歩んでいる間には聖霊によるカリスマの多様性の意味を教えてくださいました。

インドネシアという国は確かに共和国であり、多くの島々からくる民族によってなりたった国であり、ダイバーシティにおける一致については昔からインドネシアの中に大切にされている話題です。ですが、聖霊によるカリスマのダイバシティはKKITの中に特別に経験されている気がしています。才能によって示されるカリスマの多様性のみならず、多様的な人生の道や行き先もその多様性の中に含まれています。

短期間の姉妹兄弟ですが、彼らとの交流や日本での歩みは短いですが、いつかどこかで社会の中に聖霊の働きによって改めて一致させられるでしょうという希望を生み出す多様性でもあります。聖イグナチオ教会で行われているミサ、洗礼式、堅信式、改宗式などによって共に歩んでいるKKITはこのように未来への希望を抱こうとしています。

（アントニウス・フィルマンシャ―神父）

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

（６月６日開催）

1．ミッション小委員会より、2023年６月の諮問事項「社会的な動向や、豊かな国際性を踏まえた、2030年における聖イグナチオ教会の共同体のあり方」に対する答申がありました。この答申を受けて、まずは連絡会強化充実に着手します。また、10年後の姿とその課題を検討する新たな機関について検討を加えます。
2．５月26日（日）活動連絡会議で2024年度活動連絡会議幹事４名が選挙により選任されました。
3．６月４日（火）に主聖堂で行われたパイプオルガン奉献25 周年記念「オルガンで綴る32文字の黙想」はおよそ600名の参加を得て盛大に行われました。
4．当教会の若者たちが国際的なつながりを深める「インターナショナル・イグナチアンユースデー」は７月28日（日）18時30分よりマリア聖堂にて聖体賛美式を執り行い、その後ヨセフホールにて交流会を行います。

●タイムカプセル●

25年前の現聖堂建設時、後世に向けてタイムカプセルを鐘楼下に埋めました。現聖堂献堂 25 周年を向かえ、６月８日（土）にタイムカプセルを掘り出しましたが、容器への漏水もあり、内容物の公開については改めてお知らせいたします。

ミッション 2030 黙想と分かち合い

～祈り・つたえ・つながり・ともに歩む～
小さな分かち合い

「教会の語り部に聞く」

開 催 日 時： ７月28日（日）11:15 ～ 12:40
場　　所： 信徒会館２階203AB

聖イグナチオ教会は今年、「現聖堂 25 周年」をお祝いしています。そこで、主聖堂の建設時やその後の歩みをよく知る方々に、当時の思いやエピソードなどをお聞きし、参加者皆で「私たちにとっての教会」ということについて考えてみたいと思います。

今回の集いでは、幼少期から教会で過ごし、「子どもとともにささげるミサ」の始まりに関わったり、若手信徒の中心となってつながり作りにも尽力されている北澤茂雄さん（信徒）にご登場いただき、ご自分の目を通して見た教会の歩みや、今後の教会の担い手としてのお考えなどについてお話をしていただきます。

＊詳細はポスター・チラシ等でご確認ください。

●聖水盤使用の再開●

コロナ禍、使用を中止していました主聖堂とザビエル聖堂入口の聖水盤は、７月１日（月）12 時ミサより使用を再開いたしました。

●教会施設“ 修繕・保全報告”●

教会施設の 2023 年度修繕・保全の主な実施内容と本年度計画についてご報告いたします。

1．2023 年度実施状況

1）照明設備
・主聖堂バルコニー下照明、ヨセフホール照明、テレジアホール照明の LED 化　　1,029 万円

2）電気設備
・非常照明用蓄電池設備更新　　742 万円

3）その他
パントリー３ヶ所の業務用冷蔵庫更新、信徒会館４階 401 号室と 404 号室にエアコン追加設置、クリプタ脇トイレ換気扇更新、事務室床材更新、主聖堂音響機器保守部品交換　　計 790 万円

2023 年度計画の自動火災報知設備更新は一部部品交換作業が難しく、その実施方法が確立しないため次年度に延期しました。

全体予算 2,750 万円（税込）に対し、費用実額は 2,561 万円（税込）でした。

2．2024 年度実施計画

1）消防設備
・自動火災報知設備更新

2）音響設備
・信徒会館 3F アルペホール（301 号室）の音響設備更新

以上、２件を計画し、予算は 3,000 万円（税込）を計上しています。

施設委員会

7 月の典礼と行事

1　（月）　福者ペトロ岐部と187殉教者の記念日	
3　（水）	『社会問題とカトリック教会の考え　2024年度連続セミナー』 シノドス的教会－皆が参加し、ともに歩んでみよう－　　18:30　ヨセフホール 皆が弟子、皆が宣教者（１）－教会の使命における男女の相互関係－ 講師：ボネット・ビセンテ神父、[redacted]
5　（金）　初金曜日	
6　（土）	**2023年度合同追悼ミサ　10:00　主聖堂**
7　（日）　年間第14主日	ミサがわかるセミナー　13:00　ヨセフホール 「神の家のあゆみ」　講師：[redacted]氏
10　（水）	傾聴ルーム　11:15～15:00　ヨセフホール 水曜ティーサロン　12:00 ミサ後
14　（日）　年間第15主日	子どもとともにささげるミサ　10:00 日曜サロン　11:00～12:30　ヨセフホール
17　（水）	クリプタに安置され７月に命日を迎える方々のためのミサ　12:00 『社会問題とカトリック教会の考え　2024 年度連続セミナー』 シノドス的教会－皆が参加し、ともに歩んでみよう－　　18:30　ヨセフホール 皆が弟子、皆が宣教者(2)第１会期に参加して－奉献生活と信徒共同体：カリスマのしるし－ 講師：[redacted]氏　セルヴィ・エヴァンジェリー宣教会 / 第16回シノドス総会メンバー
20　（土）	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座　15:00　ヨセフホール
21　（日）　年間第16主日	**幼児洗礼式（第１回）　10:00 ミサ**
22　（月）	**聖イグナチオの取り次ぎを願う９日間の祈り（7 月30日まで）**
24　（水）	傾聴ルーム　11:15～15:00　ヨセフホール 水曜ティーサロン　12:00ミサ後
28　（日）　年間第17主日	**ロヨラの聖イグナチオの記念ミサ　　祖父母と高齢者のための世界祈願日** **インターナショナル・イグナチアンユースデー** 教会案内ツアー　①10:30　②11:00　受付9:30 ～ 日曜サロン・ミニオリエンテーション　11:00 ～ 12:30　ヨセフホール **ミッション2030　小さな分かち合い　11:15　203号室** **教会活動連絡会議　13:00　ヨセフホール**
31　（水）　**ロヨラの聖イグナチオの記念日**	

予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：髙祖　敏明
助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田　潔
協力司祭：ハビエル・ガラルダ
中村　健三
グエン・バン・テー
関根　悦雄
マヌエル・シルゴ
シスター：マルセラ・ロサス
（セントロ・ロヨラ）
フロール・フロレーセ
ジェスリン・ブエンディア
（ジョン・デ・ブリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間　Mass

【平日 Weekday】主聖堂　Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00/19:30（Việt Nam）
日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）

【月の第１日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）

【月の第２第４日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

Linktree（リンクツリー）
リンクツリー（linktree）とは多数のリンクをまとめて表示しているツールのことです。このＱＲコードを読み取ると教会ホームページ、教会ガイド、Twitter、Facebook、Instagram、YouTube へアクセスできます。

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

＊ 本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。